



日本の真ん中で育んだ、歴史と観光資源。

Set in the center of Japan, a fountain of history and tourism.
 Owari has been a strategic point of internal transport since ancient times. The city of Aisai, which touches the Kiso and Nagara Rivers, was once on the western edge of the thriving Saya Road, a branch of the Tokaido Road during the Edo Period. Many cultural heritage sites still remain from this era and from many others in the city's long history, proof of the prosperity of our ancestors. This is the heritage of those living here now, a heritage which we wish to pass on to the future.

古来より日本の国内交通の要衝だった尾張。その西端にあり、木曾川・長良川と接する愛西市には、江戸時代に東海道の脇街道として栄えた佐屋路をはじめ、長い歴史の中で育まれた文化遺産が数多く残ります。それらは、先人たちがこの地で営んできた時の証。今を生きる私たちの財産であり、未来に語り継ぐ希望です。



●木曾川観光船
 木曾川の葛木港から船頭平閘門を通って長良川へ。四季折々の水辺の自然を楽しめます。



●船頭平閘門 / 明治改修で分離された木曾川と長良川を行き来するためにつくられた日本最初期の複閘式閘門。明治期に建造され、現在も使用されています。国の重要文化財に指定。



●ヨハネス・デ・レーケ像
 明治改修での偉業を顕彰し、船頭平閘門の近くに立つ「治水の恩人」デ・レーケの銅像。

INTERVIEW 600年の伝統を未来へとつないでいくために

尾張津島天王祭での市江車の運行や奏楽は代々口伝でしたが、これからの伝承を考えると映像や文書などの記録を残していく必要があります。また、少子高齢化や跡取りの問題もあり、将来的には世襲・女人禁制という祭のしきたりを守っていくことが難しくなってきました。神事として600年受け継がれてきた伝統を守っていく一方で、祭そのものを維持していくために、女性や旧市江村以外の人たちにも参加していただく必要も出てくるでしょう。こうした取り組みが保存会の大切な役割になります。

ユネスコ無形文化遺産に登録されたのはうれしかったですね。注目が集まる分、責任も感じています。これからも市民の皆さんと交流し、祭のことをよく知ってもらって、愛西市の祭として盛り立てていただければと思います。



市江車保存会会長 佐藤 正直さん

川とともに生きてきたまち

愛西市のある濃尾平野は、木曾三川がつくりあげた恵みの大地。豊かな耕地をもたらし、人やモノのつながりを育む一方で、ある時は苦しみをもたらしてきました。江戸時代の宝暦治水、明治中期のヨハネス・デ・レーケによる木曾川改修工事などは、人智が川を制し、暮らしと自然の調和に取り組んできた愛西市の歴史の一面です。

織田信長 ゆかりのまち

野原を走り回り、水辺で魚に戯れ、天王祭の壮麗さに目を奪われた織田信長に思いを馳せる。生誕の地と伝えられる勝幡城跡をはじめ、その足跡を探すまち巡りを楽しめます。



●信長親子像



●信長モザイク壁画

勝幡城跡の最寄り駅となる名鉄津島線、勝幡駅前には、「織田信秀と土田御前に抱かれた幼少期の信長」像、「水郷の吉法師」というタイトルがつけられた若き日の信長のモザイク画、そしてガラスケースに収められた勝幡城の模型が展示されています。



●勝幡城模型

尾張津島天王祭の車楽舟行事
 600年近い歴史があり、日本三大川祭のついでに数えられる尾張津島天王祭。その朝祭では愛西市の市江車が先頭をきつて5艘の車楽舟とともに天王川を進み、10人の若者による鉾持が布鉾を手に川に飛び込み、神前に奉納します。国指定重要無形文化財であり、山鉾・屋台行事としてユネスコ無形文化遺産に登録されています。